

学界情報

IEEE Industry Applications Society 44th Annual Meeting (IAS2009) October 4 – 8, 2009, Houston, Texas, USA

2009年10月4日から8日までの5日間、米国テキサス州ヒューストンのハイアットリージェンシーホテルにて2009 IEEE Industry Applications Society Annual Meeting (IAS 2009)が開催された。IASは、電力、鉱業、静電気、照明、ディスプレイなど産業応用に関する幅広い領域をカバーする会議で、44回目の開催である。参加者数269名(31カ国、6割が米国外)、130件の技術発表とチュートリアル9件、ならびに44件のコミッティ会議が行われた。昨年度(参加500名、発表400件)に比べて小規模となった理由は、今年からIASの一部がIEEE ECCE(Energy Conversion Congress & Expo)にてセッションを開催することとなったからである。本年度ECCEの参加者は800名とのことであり、全体の規模は拡大傾向にある。

会議の初日には、コミッティ会議とともに、Presentation to first time attendees がなされた。106年の歴史をもち、9,817名、124チャプターを擁するIASの概要が説明された。夕方には簡単なレセプションが行われた。

プレナリーセッションでは、5つのコミッティから推薦された招待講演が行われた。照明、電池、静電気(豊橋技術科学大学の水野彰先生)、電源システム、鉱業と、分野は異なるが、安全安心と低エミッション社会の実現の方向性は共通するもので、IASとして一同に会する意義を感じた。

三日目の夜には、授賞式を兼ねたバンケットが行われた。本場テキサスのステーキを味わいつつ、受賞者の功績をたたえ、参加者の親交を結ぶ機会でもある。写真1は会場の様子である。幸運にも筆者は電気学会会長の松瀬貢規先生の隣席を早々に確保させていただき、IEEEの要職を務められたご経験、ご自身も2000年に受賞されているIEEE IAS Outstanding Achievement Awardの受賞者のお人柄などを伺い、国際的な学会活動の要諦をご教示いただいた。



写真1 バンケットにて松瀬会長(右)と著者(左)



写真2 授賞式の様子

日本人が関係する受賞は、池田弘明先生が Distinguished Lecturer を受賞されたのをはじめ、Society Magazine Prize Paper Award (篠田プラズマ)、Society Transactions Paper Awards (東工大赤木・藤田研究室)の受賞、新規 Follow に佐藤正之先生、さらにコミッティの表彰(写真2)においても日本の貢献が認められた。

発表者としては、IAS 2009において十分な議論の場が提供される点にメリットを感じた。発表日の朝7時から Author's Breakfast が行われる。発表者、座長、関係者が一同に会する場であり、発表者は原則参加する。セッション前に交友の機会があるため、会場での進行が円滑である。講演時間は質疑を含めて30分あるため、まとまった内容を述べた上で、十分なディスカッションができる。優れた発表はIEEEのTransactionsやMagazineへの投稿を推薦されるため、発表と質疑のメリットは大きい。

聴講者としては、チリにおける鉱業関係技術、ブラジルにおけるLEDの光療法への取り組みなど、国内ではなかなか伺えない知見を得ることができた。

さらに、コミッティ会議に関して、原則として参加を排除しないと伺ったため、実際に Industrial Lighting and Displays Committee の議論に参加した。同セッションでも発表と質疑を行うことで当該分野の一員として認められるようになった。松瀬会長から伺った内容と併せて、国際学会での貢献について必要なのは積極的な行動と地道な研究成果の蓄積であると実感した。

次回は2010年10月3日-7日に、本年と同じ会場で開催予定である。なお、ECCEとの共催の都合、いくつかの分野は、ECCE2010(9月12日-16日、アトランタ)で開催される点に注意されたい。

セッション終了日に来年の再会を誓いながらの握手で分かれたコミッティメンバーとの会合とディスカッションが今から楽しみである。

山本裕紹(徳島大学工学部光応用工学科)
(平成21年11月10日受付)